

アンゴラ共和国大使館による

「アンゴラって、どんな国かな？」

大使館の仕事を体験しよう！」

7月23日(木)、アンゴラ共和国大使館において、表題の活動が行われました。とても暑い日でしたが、小学5年生から中学2年生の当選者22名(応募総数：112名)が元気よく参加しました。

ふだんはめったに立ち入ることのできない大使館の門を、この日は特別に許可を得てくぐることができました。受付で受け取った「入館証」は、滞在中は常に首から下げていなければなりません。参加した子どもたちの顔からは、少しだけ緊張感が伺えました。



カブラル公使参事官

プログラムは、アンゴラと日本の両国の国歌から始まりました。コエーリョ大使は、急に公務が入ったため不在でしたが、代わってカブラル公使参事官が日本語で歓迎のあいさつをしてくださいました。その後、区担当者からの説明に続いて、参加者全員が一人ずつ自己紹介をしました。アンゴラの公用語であるポルトガル語で、氏名と学年を言うことができました。「Meu nome é ○○. (メウ ノーミエ ○○) 私の名前は○○です。」「Quinto ano. (キント アーノ) 小学5年生です。」といった感じです。みんなよくがんばりました。

クイズコーナーでは、Q. アンゴラはどの大陸にあるか？(A. アフリカ) Q. アンゴラで話されている言語は？(A. ポルトガル語) の2問が出されましたが、全員が見事、正解でした。

アンゴラの紹介では、地理や歴史、文化、天然資源などについて、カブラル参事官が写真や動画を使って説明してくださいました。ポルトガル語のカブラル参事官のお話を、通訳の園田ベアトリスさんが日本語で分かりやすく伝えてくださいます。そして大使館の役割、すなわち自国を適切に代表して交渉を行い、駐在国に居住する自国民を支援し、友好関係の質を向上させることについても教えていただきました。

質問タイムでは、子どもたちから、国土の広さや人口、地下資源や経済状況などについて、様々な切り口から多くの質問が出されました。中には「きょうだいは何人ぐらいですか？」「アンゴラでは少子化は進んでいますか？」

「日本で他の国の大使館と交流はありますか？」「大使館の仕事のやりがいは何ですか？」といった質問も出ました。そのひとつひとつにカブラル参事官ははていねいに答えくださり、子どもたちはアンゴラの理解をいっそう進めることができました。



子どもたちからたくさんの質問が出されました。

すると今度は、カブラル参事官から子どもたちへ向けて「みなさんの夢や将来になりたい仕事は何ですか？」という質問がありました。まだ決まっていない、もしくは考え中の子がいる一方、パティシエやバス運転士、建築士、カーデザイナー、ダンサー、サッカー選手、テニスコーチなど明確に目標を定めている子どもたちもいました。真剣に答える子どもたち一人一人を、カブラル参事官は優しいまなざし

で見つめていました。



ビュッフェスタイルの軽食。

前半が終了し、ここでみなさんお待ちかねのティーブレイク(休憩時間)になりました。テーブルに並べられたいろいろなアンゴラの料理を、好きなだけ取って食べることができます。ツナサンドイッチやコロッケ、ポルトガル風エッグタルト、各種ケーキ、アップルパイ、フルーツ盛り合わせなどを子どもたちはうれしそうに選んでいました。飲み物はコーヒーや紅茶、オレンジジュースの他に、ムクアジュースというバオバブの実の



まん中が、ムクアジュースです。



ミュージックビデオを鑑賞しながら、ひと休み。

覚でも異文化を体験することができました。正面のスクリーンには、アンゴラの音楽ビデオが上映され、軽快な音楽を聴きながら、ひと休みすることができました。

後半は、ワークショップです。全員で手分けをして、「包みボタン作り」を行いました。カラフルなアフリカの布を

ミュージックビデオを鑑賞しながら、ひと休み。ゴラが参加する、東京ビッグサイトで行われるイベントにて配布されるものです。大使館のお仕事の一助として、作業を行いました。アフリカの雰囲気が伝わってくる布を円形に切り抜き、型にはめて押し込んで完成です。はじめのうちは戸惑っていた子どもたちも、要領をつかむと手際よく次々とボタンを作っていました。短い時間でしたが、あっという間に色とりどりのすてきな「包みボタン」がたくさんでき上がりました。

使った包みボタンです。これはアン



包みボタン

この作業では、周りの子同士が声をかけ合いながら協力している様子が見られました。

最後に今日の振り返りをして、活動を終わりました。



カラフルな布を丸く切ります。



集中してボタン作りに励んでいます。

帰り際に入出口付近の展示コーナーを見学しました。民芸品や彫像が飾られた場所です。そこには楽器も置いてあり、カブラル参事官が即興で見事なドラミングを披露してくださいました。子どもたちの盛大な拍手で会を閉じました。

